

「廃仏毀釈」について

公益委員 平 田 浩 和

公益委員として2年が経ちました。最近の変化の激しい労働環境や、それに対応する労働法制や支援制度など、日々勉強する2年間でした。

この2年間で、公益委員としての仕事以外で新しく始めたことがいくつかありますが、今回は「廃仏毀釈」について書いてみたいと思います。

半世紀ほど前の学生時代、東京から鹿児島へ帰省するたびに途中下車し、京都や奈良などの寺社仏閣をまわるのが楽しみでした。その際いつも思っていたことは、京都、奈良、その他多くの地域には歴史的な由緒ある大きな寺院が多くあるのに対し、鹿児島には何故、奈良や京都までとは言わないが、歴史ある大寺院がないのだろうと、常々疑問に思っていました。

中学・高校の歴史教育の中で教わった廃仏毀釈の影響だということは理解しており、当時もいくつかの書籍などを読みましたが、今ほど廃仏毀釈についての調査研究が進んでおらず、あまり掘り下げて考えることもありませんでした。当時は、明治維新の一つの出来事としか考えず、明治維新前後の負の影響が現在の鹿児島の観光や県民の宗教心などに大きな影響を与えているとは考えもしませんでした。

この2年間に廃仏毀釈についての、多くの書籍や文献などを読むとともに、かなりの寺院跡にも行ってみました。最近では半世紀前と違い、廃仏毀釈についての調査研究が在野の研究者を中心に進んでおり、数多くの書籍などが出版されています。

文献などによれば、鹿児島では徹底した廃仏毀釈が行われ、薩摩藩内にあった1066か所

の寺院破却と多くの仏像や仏具などを失うとともに、2964 人の僧侶が一般人に還俗させられました（名越護著「鹿児島藩の廃仏毀釈」）。明治元年、明治新政府は「神仏分離令」を出して、神社を寺院から独立させ神社から仏教的なものを取り除くように命じましたが、鹿児島ではこれを一步も二歩も進めてすべての寺院を徹底的に破壊してしまいました。

人間の心に関する重要なことが、僅か数年の間に実施されてしまい、「千数百年もの長い間、睦まじい同棲関係にあった神と仏の関係を、ある日突然他人から強引に力で別れさせたようなもの」（白井史郎著「神仏分離の動乱」より）であると言えるのではないのでしょうか。

実際現地に行ってみると、島津家の菩提寺は、寺が無くなっても立派な墓石群が残っていますが、ほとんどの寺院は跡形もなく、本当にここに寺院があったのかと驚かされるぐらいで、倒された墓石、市町村の説明板（一部の市町村のみ）、首や手足が破壊された仁王像（一部の寺院跡のみ）だけが、ここに約 150 年前までは寺院があったことを物語っている状況にあります。

現地に立って寺院跡を見ていると、鹿児島の先人たちやそれを推し進めた役人たちの思い、他県の廃仏毀釈の状況、薩摩藩の一向宗弾圧との関係など、次から次へと調べてみたいことが出てきます。

明治維新については、これまで色々な調査研究が進められていますが、廃仏毀釈については、ほとんどが在野の研究者によるものであり、公的な調査は行われていないと思っているので、国や県による総合的な調査研究をお願いしたい。また、自分としては、全ての寺院跡を調査することはできないが、今後も、できる限り多くの寺院跡を訪問し、記録するとともに

に、もっと多くの書籍や文献に目を通したいと考えている。